

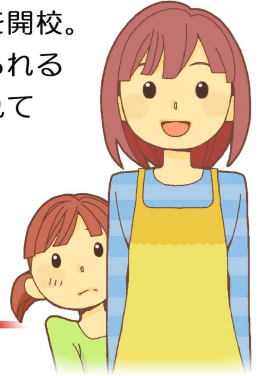


## 自分で立ち上がりたくなる場

引きこもり・自殺願望・家庭内暴力・精神障害…さまざまな問題を抱え、生きづらい若者たちに寄り添う活動を三十年以上続けてきた、藤 大慶(ふじだいきい)さんという浄土真宗僧侶が京都におられます。

二十年前、京都府では唯一となる児童心理治療施設「るんびに学園」を開校。現在は就学年齢の子だけでなく、社会に出た後に挫折した人も帰ってこられる場を作りたいと、「アショカランド」という新たな施設の開園に奔走されています。

藤さんが長年立ち止まることなく活動してきた中心にあるのは、**「どんな人も真っすぐに伸びたがっている。そうなれる力を持っている」**という思いでした。



死ぬことばかりを考えていたひよろひよろのY子をスタッフに加えたが、何も出来ない。そこへ自閉症で一言もしゃべらないA子が遅れて参加してきた。そんなA子に、他のスタッフたちは声をかけていたが、うつむいたままで何も応えない。スタッフたちは手も足も出せず、自分の仕事に逃げていた。これを見ていたY子は、…一日中、付きっきりで声をかけ続けていたのだ。そして三日目、「A子ちゃんが、しゃべりました！」と嬉しそうに駆け込んできたのだ。この後、二人は徐々に本来の耀きを取り戻し、翌年の「短期るんびに苑」では、スタッフとして見違えるほどの活躍してくれた。

...

本来なら温かい家族の中で、誕生前から乳児期・幼児期・少年期にかけて育まれる**安心感や自己肯定感、信頼感**。この土台の上に動き出す好奇心・学習意欲・冒険心。きちんとした生活習慣や他者への配慮。そして自己の感情のコントロール。これらを遅ればせながら身に付けてもらおうという取り組みだ。

これらを言葉で伝える(指示する)ことは出来ない。私たちに出来ることは、…**「本人が自分で気付き、自分で立ち上がりたくなる場を創る(用意する)」**ことだと思っている。

『みんな真っすぐ伸びたがっている』藤 大慶 著より



子ども達が生きづらさを抱える原因は数多ありますが、藤さんは特に、幼少期の温かい環境の中で育まれる「安心感」の欠如に注目しています。**「安心感」を得られれば、そこから「自分で立ち上がりたくなる」と。**

これは、大人にも同じことが言えるのではないのでしょうか？ つらくて前が向けないとき、ただ「努力が足りない。がんばれ、がんばれ」と言われるだけでは参ってしまいます。**「あなたは受け入れられている、そのままで大丈夫」**という安心感を得られたとき、はじめて前を向く気力が湧いてきます。仏法の聴聞は、阿弥陀さまからの**「大丈夫」の声**を聞き、安心を得られる「場」です。そして再び立ち上がりたくなる「場」でもあるのです。

